

二〇二二年四月一六日

春愁や母校の名前消滅す	こすもす
燕翔ぶ神戸にハラル専門店	凡士
早暁の木々に耳当て桜守	かかし
海神の風に知覧の桜散る	素秀
囀りやおのころ島の花栈敷	たか子
囀りに朝のはじまる草の庵	愛正
肩うつは芽吹き雨と思ひけり	よし子
マラソンに挑む卒寿や風光る	かかし
浄土はも総身に浴びる花吹雪	はく子
チューリップ全開亭午の花時計	むべ
村と村繋ぎかつ散る桜道	素秀
讃美歌を口ずさみつつ種選	むべ
鄙の宿大玻璃窓に花吹雪	はく子
貝寄風に乗る松籟や岬の宿	たか子
春の海潮目の碧の濃く薄く	わかば

根上りに座す人もおり花筵

よう子

実りよき僧のほまち田豆の花

なつき

寄り道す夜桜の灯にいざなはれ

素秀

毎週句会秀句・みのもる選・二〇二二年四月一七日